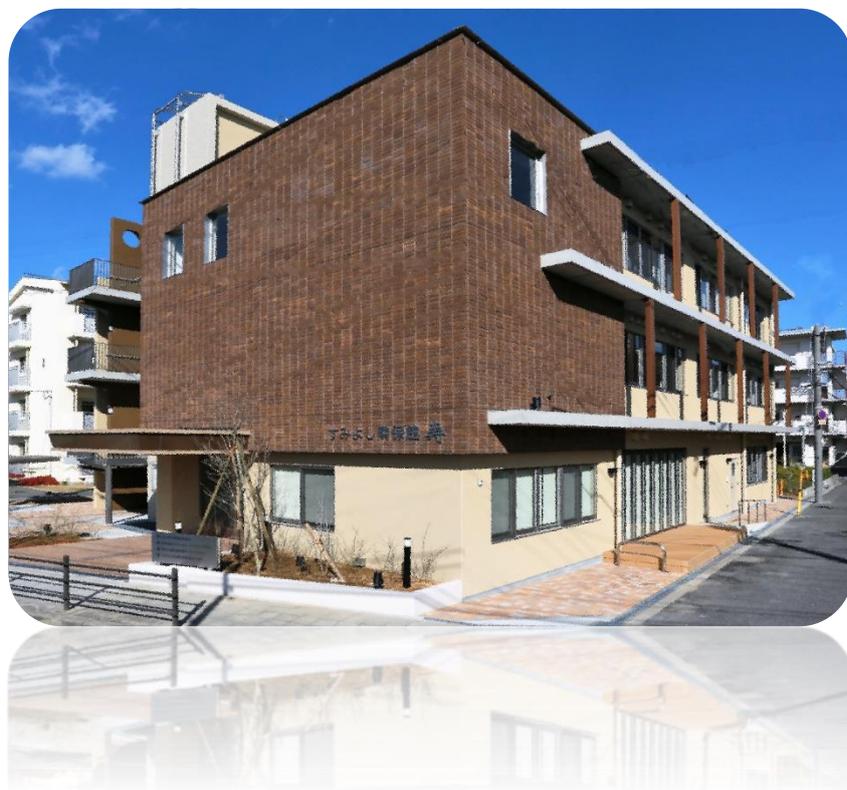


2018 年度事業報告



公益財団法人住吉隣保事業推進協会

公益財団法人住吉隣保事業推進協会 2018年度事業報告

2018年度、公益財団法人住吉隣保事業推進協会(以下、当法人)は、民設置民営の住吉隣保事業推進センターを拠点として、隣保事業に取り組んで3年度目となりました。現在、隣保館は、社会福祉法の改正などを踏まえ、地域社会の課題解決のための社会資源としても期待されています。しかしながら、隣保館を民間で運営するためには、財源確保をはじめさまざまな課題があります。この冊子では、当法人が2018年度に取り組んできた事業についてご報告します。

最後になりましたが、賛助会員の皆様、ご寄付をいただいた皆様に対して、心からお礼を申しあげるとともに、今後とも当法人に対する温かいご支援をお願いいたします。



公益目的事業 1

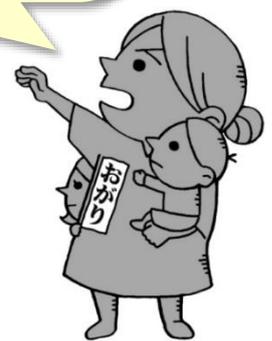
総合生活相談や法律相談など、地域住民の自立支援や共生社会の実現に向けた事業

①総合生活相談



2018年度の相談件数は
全体で689件でした。

- 生活総合相談 298件
- ケース会議(教育、就労、福祉、個別) 366件
- 法律相談は 25件



ケース会議を定期的に行ってきたことや、隣保館に、住吉区北地域包括支援センター、訪問看護ハートフリー・居宅介護支援事業所ハートフリー、住吉第五振興町会・住吉住宅自治会連合、部落解放同盟大阪府連合会住吉支部が事務所を置いていることにより、関係機関との連携が強化され、相談機能の充実につながっています。今後は、相談ケースの集約・分析の整備を進めていく必要があると考えます。

②困窮者自立支援事業

1. 自主学習支援事業(住吉べんきょう会)、
2. 中間就労支援事業(お仕事じっくり相談会)、
3. 寿こども料理食堂の3つからなる支援事業

1. 自主学習支援事業(住吉べんきょう会)

2019年3月末の登録数は、
小学生12名(定員10名)、中学生2名(定員5名~10名)
となっています。



2018年度は、小学生の部が定員に達し、中学生は3年生が志望校に合格することができました。また、高校生は対象外でしたが、卒業生からの要望で中学生と同じ時間帯に参加しています。その高校生は小学生の部にボランティアにも来てくれています。

中学生の部の在籍数が少ないこと、大学生の長期休み中はボランティアが少なくなること、事務局がない間の保護者対応などが今後の課題となっています。



2. 中間就労支援事業

総合生活相談や就労支援ケース検討会議と連携して、就労支援を行っています。「お仕事じっくり相談」については、必要に応じてその都度個別対応をしています。



3. 寿こども料理食堂

こどもの居場所づくりや、こども達が栄養について考えたり、自分で料理を作ったりできるように「食育」を目的とし、毎月第2・4火曜日4時～7時半の時間帯に行っています。調理は主にこども達とボランティアで行い、食事はどなたでも参加できます。

(中学生以下は無料・高校生以上は材料費300円)

食材は、ふーどばんく OSAKA、山川物産株式会社をはじめ、さまざまな団体・個人の方から物品寄付としていただいています。また、運営費は、高校生以上の材料費、寄付金・NTTドコモの助成金(助成金額1,157,000円)からまかかっています。

さらに、料理食堂以外にボランティア研修会の開催(1回)、「住吉区地域・こども食堂連絡会」への参加も行っています。



2018年度の登録者は、こども49人(2017年度46人)・おとな21人(2017年度22人)でした。また「こどもの貧困」というテーマで、講演会に呼んでいただくことも増えてきました。

ボランティアの数が安定せず、調理中のこどもの見守り等に関して不十分であることが今後の課題となっています。



「みんなの居場所コモン喫茶」への参画

地域における年齢、性別、障がいの有無等を超えて多様な人たちが交流できる居場所づくり「みんなの居場所コモン喫茶」に参画しました。12月19日(水)には、「コモンクリスマスパーティ」を行い、約60名の方に参加していただきました。



③識字・日本語教室支援事業

住吉地区では、1966年に識字教室(教室名:「輪読会」)が始まりました。「識字教室」とは、読み書き等を通して、「生きるちから」を身に付けるとともに、社会に参加し、より良い社会の創造へつなげていくことを目的とした活動です。

現在、発足当初から教室に参加している学習者が高齢になり少なくなる一方で、単身高齢者の方の居場所にもなっています。また、義務教育時代に学校に行けなかった若年世代の方の学びなおしの場にもなっています。

日本語教室では、いろいろな国の方が日本語を学びに来られています。

★教室の紹介★ (2019年3月31日時点の情報です)

【輪読会水曜組】

活動日時:毎週水曜日(8月は夏休み)午後1時~午後3時

学習者(1度でも参加した人):11名 学習支援パートナー:4名

学習者は、地区内の高齢者(70代~90代)が中心となっています。

【輪読会土曜組】

活動日時:毎週土曜日(8月は夏休み)午後1時~午後3時

学習者(1度でも参加した人):17名 学習支援パートナー:6名

学習者は、20代~80代と幅広く、中国、ベトナム、台湾の方なども参加しています。

【住吉日本語教室】

活動日時:毎週木曜日(8月は夏休み)午後7時~午後9時

学習者(一度でも参加した人):14名 学習支援パートナー:5名

学習者は、滞在条件が違うため流動的です。現在は、中国、ベトナム、台湾、アメリカ、トルコの方が参加しています。



3教室で121回開催しました。
参加のべ人数は、1,034名でした。



6月16日に大阪市内識字・日本語教室連絡会の総会が開催され、学習者・学習支援パートナー等が参加し、大阪市内の部落で始まった教室の関係者達が交流を深めました。

10月28日、「だい29かい よみかきこうりゅうかい2018」に9名が参加し、作文のひろば(分科会)では、学習者の木本久枝さんが作文『母の生き方』を発表しました。

2月6日、27日には、住吉小学校5年生が部落問題学習の一環として輪読会水曜組の見学を行いました。



公益目的事業 2

高齢者や青少年をはじめ、地域住民の生きがいづくりや、健全育成を通してコミュニティの活性化を目的とする文化・スポーツ・教育に関する事業

①公益性を担保した貸室事業

利用料金は低料金におさえ、だれもが使いやすく、世代を超え、気軽に集って交流できる活動拠点として貸室事業を行っています。

有料利用率は、4月当初の30%前半から徐々に増加し、年度末に少し下がったものの、利用率40%代で推移するようになっており10%程度増加しています。機関会議等収益の無い利用を含めた全利用率も同様に、4月当初から徐々に増加し、夏休みになる事業がある8月と休館になる12月・1月に一時下がりますが、傾向としては徐々に増加しています。利用率の上昇に反して、利用者総数が微減しているのは、多人数での利用が若干減少したからだと思います。貸室利用登録団体は2019年3月末現在で145団体となっており、前年度から30団体増えています。



②生涯学習事業

子どもから高齢者までだれもが参加しやすく、生きがいや人権が尊重され、心豊かで活力のあるコミュニティづくりをめざしています。

今年度の特徴としては、かなえ会の講座数が減少。親子向けのハンドメイドアクセサリー講座や、きもの着付け講座など、新規の講座を開講しました。

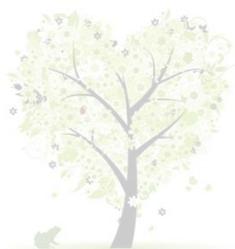
楽しい講座がたくさんあるよ♪



表:2018年度実施事業一覧

事業名	時間	実施回数	募集人数	応募人数	参加人数
1 麻雀クラブ	13:00~17:00	101回	30人	26人	16人 (1372人)
2 わかりやすい能と古典文学 (4月~6月)	13:00~15:00	計3回	30人	23人	19人 (のべ49人)
3 かなえ会主催歴史講座(春期1)	14:00~15:30	計3回	各回60人	60人	50人 (のべ98人)
4 かなえ会主催歴史講座(春期2)	14:00~15:30	計3回	各回30人	36人	31人 (のべ57人)
5 かなえ会主催歴史講座(春期3)	14:00~15:30	1回	30人	24人	15人 (のべ15人)
6 わかりやすい能と古典文学(7月~9月)	13:00~17:00	計3回	30人	24人	22人 (のべ62人)
7 プリザーブドフラワーアレンジメント	10:00~12:00	1回	20人	5人	5人
8 フェルトの花・つまみ細工	10:30~12:00	1回	20人	20人	6人

						(のべ6人)
9	浴衣着付け講座(実施せず)	10:00~12:00	1回	20人	0人	0人
10	かなえ会主催歴史講座(夏期1)	14:00~15:30	計3回	60人	53人	43人 (のべ85人)
11	かなえ会主催歴史講座(夏期2)	14:00~15:30	1回	30人	22人	16人
12	かなえ会主催歴史講座(夏期3)	14:00~15:30	1回	30人	13人	8人
13	かなえ会主催歴史講座(秋期1)	14:00~15:30	計3回	60人	50人	43人 (のべ88人)
14	かなえ会主催歴史講座(秋期2)	14:00~15:30	計3回	30人	31人	23人 (のべ45人)
15	わかりやすい能と古典文学(10月~12月)	13:00~15:00	計3回	30人	23人	21人 (のべ59人)
16	手作りみそ講座	10:00~20:00	1回	定員なし	120人	120人
17	きもの着付け講座	10:00~12:00	計6回	20人	3人	3人 (のべ16人)
18	かなえ会主催歴史講座(冬期1)	14:00~15:30	計2回	30人	31人	25人 (のべ30人)
19	かなえ会主催歴史講座(冬期2)	14:00~15:30	1回	30人	43人	33人
20	クリスマスフラワーアレンジメント	10:00~12:00	計1回	20人	3人	3人
21	わかりやすい能と古典文学(1~3月)	13:00~15:00	計3回	30人	26人	24人 (のべ58人)
22	きもの着付け講座	10:00~12:00	計6回	20人	3人	3人 (のべ18人)



③図書事業

図書事業は、無償の図書ボランティア9名体制によって運営され、図書室の開室、図書の貸出を行っています。

図書館開館日は、月・火・金の13:00~17:30だよ☆



貸出可能図書は、1000冊程度

の規模ですが、話題図書の追加を随時行っています。また「まちライブラリー」

という小規模の図書コーナー、図書室を紹介するウェブサイトに蔵書を登録し公開することにより、利用率向上をめざしています。まちライブラリーを経由して図書室に来られる利用者も出ており、利用者増加につながっています。



④もと住吉青少年会館附設体育館の管理運營業務



2018年度は、2019年3月31日時点で、91団体(前年度77団体)がグループ登録を行っています。バレーボール、バドミントン、卓球、バスケットボール、フットサル、ソフトバレー、ドッチボール、民踊、空手、ダンス、アルティメット、剣道、中国武術、新体操の14種目におよび、10才未満の子どもから80代の高齢者までの利用があります。また、月に数回バレーボールやソフトバレーの大会が開催される等、スポーツを通じた地域間交流、世代間交流の拠点になっています。

利用状況は、利用者数が27,435名、利用回数が1,288回。その内、アリーナ1,231回、トレーニングルーム57回となっています。2018年度は、体育館屋上の消火栓用のタンクおよび配管の修繕を行いました。

公益目的事業 3

部落差別をはじめとするあらゆる差別の撤廃にむけて、調査・研究・啓発を通して、地域住民の人権感覚や人権意識の向上を目的とする事業

①人権教育・啓発推進事業

2018年度は、人権教育・啓発推進事業として、住吉・住之江じんけんのつどい、住吉・住之江同和人権教育推進協議会、フィールドワーク事業、人権研修の講師派遣およびコーディネートに取り組んできました。詳細については、以下の通りです。

(1)住吉・住之江じんけんのつどいへの参画(2018年12月8日開催)

住吉・住之江じんけんのつどいは、2018年度で26回目を迎え、住吉地区研究集会から発展した人権について考える機会、「じんけんの『かかわり・つながり・ひろがり』を求めて」をスローガンに毎年1回開催されています。現在は、住吉区・住之江区の33団体で構成されています。

2018年度は、全体会テーマに「インターネットの広がり新たな差別問題」を取り上げ、詳しく学びました。以下は全体会と分科会の内容および参加者数です。

全体会:	「インターネットの広がり新たな差別問題」..... 参加者 235名 講師 松村 元樹さん(公益財団法人反差別・人権研究所みえ 事務局長)
分科会: 教育①	「多文化共生の地域づくり～誰も孤立しない社会へ～」..... 参加者 33名 講師 金光敏さん(コリア NGO センター 事務局長)
教育②	「人権教育の視点で『特別の教科 道徳』を考える」..... 参加者 71名 講師 富田 稔さん(天理大学)
福祉①	「私の介護体験からお伝えしたいこと(安心の介護の中で認知症を生きた父)」参加者 35名 講師 和崎 光子さん
福祉②	「人権のまちづくり～“隣保館”と“福祉計画”の役割を考える」..... 参加者 25名 講師 大北規句雄さん(株HRC コンサルティング代表取締役)

啓発① 「避難所の運営について」 参加者 16 名
 講師 山口 和幸さん(大阪市危機管理室 地域防災力向上アドバイザー)
 小林 資明さん(住吉区役所地域課 課長代理)

啓発② 「地域活動のネットワーク作り フードバンクについて」 参加者 16 名
 企画 部落解放同盟大阪府連合会住吉支部

(2)住吉・住之江同和人権教育推進協議会への参画

住吉・住之江同和人権教育推進協議会は 2018 年で、発足から 50 年を迎えました。それを踏まえ、4 月に実施された「人権のまちづくりを考える」すみよし連続講座記念講演会(テーマ:「日本の現状と基礎教育保障の重要性」/講師:前川 喜平さん)を 50 周年記念事業に位置付けて取り組みました。

「障害者差別解消推進法」「ヘイトスピーチ解消推進法」「部落差別解消推進法」の「差別解消推進三法」が施行されたことを踏まえ、取り組みを進めてきました。詳細は、以下の活動報告をご参照ください。

表:2018 年度の主な活動報告

活動名	活 動 内 容	日 程
同推協全体研修会 (総会)	・講演テーマ 「すべての子どもに教育を～教科書無償化を求める運動を通して～」 講師:村越 良子さん(「長浜地区小中学校教科書をタダにする会」もと事務局員)	6/13(水) 16:00～
役員会	・同推協活動の意義と役割 ・活動報告・活動計画・基調提案の検討等	5/17(火) 18:30～
	研修会 ・講演「在日朝鮮人教育で何を大切にしていくなのか」 講師:榎井 縁さん(大阪大学国際共創大学院学院プログラム推進機構未来共生イノベーター博士課程プログラム特任准教授)	10/3(水) 18:00～
	研修会 ・猪飼野・コリアタウンフィールドワーク	2/23(土) 13:00～
住吉・住之江 じんけんのつどい (第 26 回)	教育分科会をコーディネート ①「多文化共生の地域づくり ～誰も孤立しない社会へ～」 講師:金光敏さん(コリア NGO センター 事務局長) ②「人権教育の視点で『特別の教科 道徳』を考える」 講師:富田 稔さん(天理大学)	12/8(土) 13:00～
人権全体公演会 (御崎地域 P T A 共催)	公演内容 「太鼓に打ち込む一つの想い～浅香太鼓集団「獅子」30 年の歩み～」 講師:浅香太鼓集団「獅子」	2/20(水) 15:30～
専門部会	「部落問題学習部会」「在日朝鮮人教育部会」「障がい児教育部会」 「進路保障部会」「のびのび保育部会」の 5 部会を年 8 回開催	第 2 火曜日 16:30～
公開授業研究会	「一人ひとりを大切に活動を通じて『伝えてよかった』と思える集団をつくりたい ～人権総合学習の工夫～」	10/31(水) 14:30～
共生の学校づくり 学習会	大阪市教育委員会『人権教育・啓発推進計画』実施計画について 講師:石井 宏亨さん(大阪市教育委員会 人権国際教育担当主席指導主事)	12/7(金) 15:30～

機関紙の発行	機関紙『すいしん』307号～310号を発行し、市内の小・中学校や住吉区役所等に配布しました。	
--------	--	--

(3)フィールドワーク事業

2018年度は、17団体、422名の方を受け入れました。住吉部落の成り立ち、住吉地区における人権尊重のまちづくりの歩み、住吉地区の現状と課題、取り組み、等についての講義と、住吉地区の見学をセットで学ぶことで、理解を深めていただく工夫をしました。

(4)人権研修の講師派遣およびコーディネート

20団体、2,783名の方に対して、23回の講演を行いました。主なテーマは、「部落問題」「住吉隣保事業推進センターの取り組み」でした。

開催数が増えた理由としては、2017年と2018年に開催された第69回・70回全国人権・同和教育研究大会で、報告者として住吉地区の取り組みを全国に発信したことなどが挙げられます。

関西大学堺キャンパスでの講演をきっかけに、住吉べんきょう会や、寿こども料理食堂にボランティアとして参加してくださる大学生の方もいます。

②調査・研究事業

公益目的事業「調査・研究事業」の一環として、「人権のまちづくりを考える」すみよし連続講座を実施しました。

また、新規事業として、WAM助成を活用した「地域のお悩み解決！集まれどっこい隊」事業を実施しました。実施した内容については、「すみりんニュース」でお伝えしました。

(1)「人権のまちづくりを考える」すみよし連続講座

「人権のまちづくりを考える」すみよし連続講座を、当法人、住吉第五町会、部落解放同盟大阪府連合会住吉支部、医療法人ハートフリーやすらぎ、社会福祉法人ライフサポート協会からなる実行委員会で企画・実施し、人権尊重のまちづくりの推進を目的に取り組みました。以下はその内容です。

4月21日(土)	テーマ：「日本の現状と基礎教育保障の重要性」 講師：前川 喜平さん(文部科学省 元事務次官)
7月7日(土)	テーマ：「辺野古は今 沖縄と連帯する大阪集会」 講師：緒方 修さん(EACI 琉球沖縄 センター長)
7月28日(土)	テーマ：「木や森とともに生きる～マイお箸作りをつうじて～」 講師：米地 徳行さん(NPO 法人木育フォーラム 理事長)
9月8日(土)	テーマ：「まちを次世代につなぐー空室・空店舗を活用してー」 講師：森 一彦さん(大阪市立大学院生活科学研究科 教授)
12月8日(土)	テーマ：「人権のまちづくり～“隣保館”と“福祉計画”の役割を考える」 (第26回住吉・住之江じんけんのつどい 福祉分科会②) 講師：大北 規句雄さん(株HRC コンサルティング代表取締役)
2月2日(土)	テーマ：「泉北ニュータウンにみる空き家・空き建物の福祉転用」 講師：西上 孔雄さん(NPO 法人すまいるセンター 代表理事)

(2)住吉部落史研究会

2018年度は、小住光さんを講師に招き、「1970年代の住吉地区の実態と解放運動の展開」をテーマに報告をしていただきました。以下はその内容です。

日 程：2019年2月23日(土)午後3時30分～午後5時30分

場 所：住吉隣保事業推進センター 1階近隣交流スペース

テーマ：「1970年代の住吉地区の実態と解放運動の展開」

講 師：小住光(部落解放住吉住宅自治会・住吉第五町会会長)

参加者：27名



(3)2018年度WAM助成事業「地域のお悩み解決！集まれどっこい隊」

多世代住民同士が地域課題を共有し、課題解決に向けて住民自身が学び、知恵を出し合い、解決プランを立て、実行するために相互に協力し合うことを目的に、ワークショップの開催や専門家による講座受講などを実施する事業。

【助成期間】2018年4月1日～2019年3月末まで

【助成確定額】316万5000円



2018年度は、WAM助成を受けて、「地域のお悩み解決！集まれどっこい隊」事業を実施しました。上半期には、毎月1回事務局会議を開催し、ワークショップや学習会を行いました。また、そこから見えてきた課題を踏まえて、「障子張り替えどっこい隊」「どっこい喫茶拡大版オガリナイト」を行い、下半期には、「クリーンアップどっこい隊」を行いました。

のべ参加者数は386名です。

(4)情報発信事業(財団HP、『すみりんニュース』等)

公益財団のウェブサイトの情報更新を随時行い、フェイスブックでも講座情報を公開し、利用者が情報にアクセスしやすい環境を整えました。法人の沿革、実施する事業内容、「すみりんニュース」電子版の公開も継続して行い、ウェブサイトを通じた情報公開を行っています。また機関紙「すみりんニュース」は、No60～65を発行し、事業活動の報告を行っています。

住吉隣保事業推進センターの実施事業を案内した「寿だより」(12～17号)を発行して、施設近隣地区の町会を通じて配布し事業の周知を進めました。

(5)部落問題をはじめとする人権問題の資料整理及び閲覧事業

これまで、住吉地域のさまざまな歴史資料の散逸を防ぎ、それらを活かすために資料の整理精査事業に取り組んできました。

今年度は10月28日、未整理で保管されていた大量の資料を大分類する作業を、住吉地域に精通したボランティアの方々の手により行いました。さらに、この大別された資料を、活用可能なものにするため分類作業を継続しています。資料を個別に劣化防止中性紙封筒へ保管しなおし、一点ずつに文書管理の分類情報ラベリングを行っています。またこの作業に基づき、資料のデータベースも作成しています。すべての資料が分類保管され、データベースから自由に参照でき、活用可能な状態になることを目指して順次作業を進めています。

今後はこのように整理された資料を活用し、部落史研究に役立てる予定です。



住吉隣保事業推進センター
~すみよし隣保館 寿~

運営団体:公益財団法人住吉隣保事業推進協会

〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東 5-6-15
TEL:06-6674-3732 FAX:06-6674-3700